

美里 Super Town プロジェクト

概要
 スマートICによる新たなポテンシャルを活かした生活・経済活動の中心となる機能の集約により、町民の生活と自然環境が共生したコンパクトで“美力”的な拠点の構築を目指す。
 ※「美力(みりよく)」とは、美里町の魅力を意味する造語である。

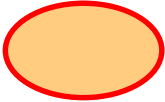
課題

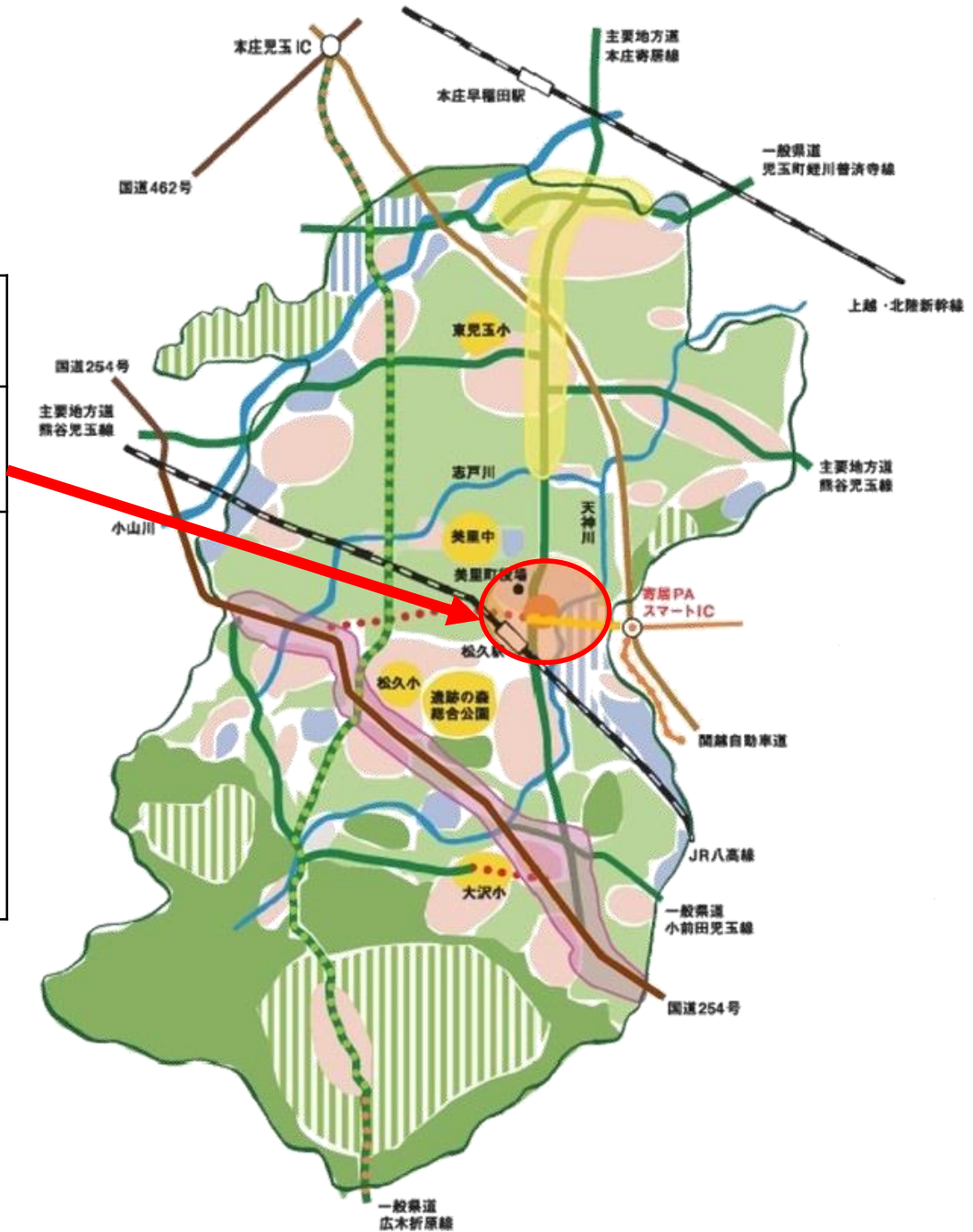
- ・現在、約11,000人の人口が20年後の2040年には8,400人まで減少。また、高齢化も更に進む。
- ・商店街や市街地がないため、町民の生活・消費活動が町外に依存している。
- ・自然環境や観光資源は多彩だが、活かされてない。

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	都市機能の集積による生活利便性の向上及び賑わいの創出 町内消費の拡大	中期 (5年)	買物や食事、医療、交流等の日常生活に必要な都市機能の集約を図る。 官民連携による地域活性化施設の整備やテレワークの推進により、地域経済の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活機能(商業・医療・福祉)の民間誘導 ・官民連携の体制づくり ・地域資源の活用
スマート	自動運転技術を活用したスクールバスの運行と交通弱者の移動の確保	長期 (10年)	スマート技術を活用したスクールバスの運行や、中心拠点地区と各集落間のスムーズな移動が可能となる体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティサービス(自動運転・EV等)
	町民の健康づくり・データ構築	短期 (3年)	健幸ポイント事業に合わせて、ICTおよびSIBを活用したケア体制を構築する(遠隔医療等)。	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスケア ・遠隔医療
レジリエント	災害時でも途絶えない電源の確保	中期 (5年)	当地区の核となる地域活性化施設を防災拠点として活用し、災害時でも途切れない電源を確保し、災害に強い地域を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・蓄電池 ・防災情報デジタル化
	脱炭素社会に向けたエネルギーの地産地消	中期 (5年)	再生可能エネルギーによる地域新電力の導入や工業団地のエネルギー融通により脱炭素化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電・新電力 ・再生可能エネルギー

第5次美里町総合振興計画 (令和3年度～7年度)より抜粋

■土地利用構想図

名称	まちづくり拠点地区(中心拠点)
凡例	
概要	スマートIC事業と併せて整備した接続道路を中心に、町の玄関口としての機能を最大限活かした地区を整備する。これにより、新たなひとの流れをつくる地区とする。



美里版スーパー拠点のイメージ(施策例)

官民連携

- ・民間誘導等により都市機能の集約を図る
- ・官民連携による地域マネジメントの構築
- ・サテライトオフィスの整備

地域産業活性化

- ・生活機能の集約・複合化
- ・直売所の農産物生産管理・顧客データの構築・農業者との共有
- ・ドローンによる農産物集荷



モビリティ・サービス

- ・クリーンエネルギーを活用した自動運転(ラストワンマイルの交通手段)
- ・不便地域にドローンで即日配送



ヘルスケア

- ・ミムリン健幸ポイント事業による町民の健康管理
- ・遠隔診療による地域包括医療



スマート防災

- ・地域活性化拠点の防災機能の強化
- ・防災情報の通知(デジタルサイネージ)



エネルギー循環

- ・ソーラーシェアリング、バイオマス燃料による再エネ導入
- ・地産地消のエネルギーマネジメント



【(仮)美里スーパーシティ協議会の構築】

推進体制

- ・美里町
- ・埼玉県
- ・地域内企業
- ・地域活性化施設事業者
- ・ヘルスケア事業者
- ・次世代モビリティ事業者
- ・情報通信事業者
- ・電力事業者
- ・コンサルタント(事務局)